

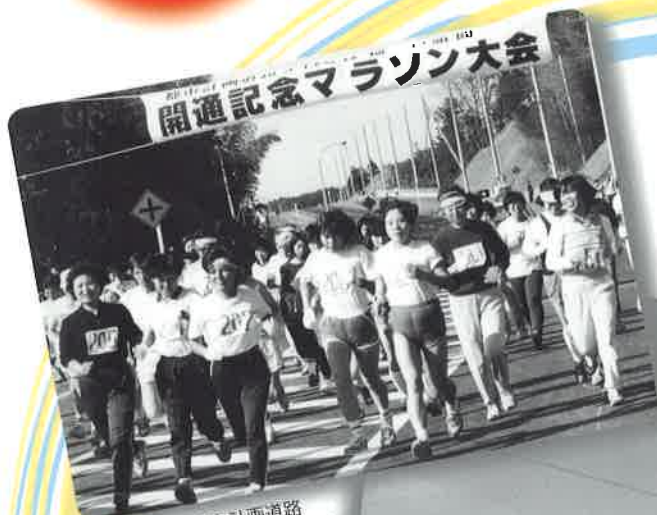
取手市制施行40周年記念・埋蔵文化財センター第28回企画展



# ふりかえる取手の現代 —取手市の誕生から発展の未来へ—

平成22年7月20日(火)～9月24日(金)まで  
午前10時～午後4時30分まで(入館は4時まで)  
9月4日は、午後6時まで(入館は5時30分まで)

会期中無休  
入館無料



昭和62年 都市計画道路  
(現ふれあい道路)取手駅西口・  
戸頭間開通記念マラソン  
(取手市所蔵)



取手市庁舎落成  
市制施行記念



市庁舎落成パンフレット(取手市教育委員会所蔵)



昭和45年 市制施行時の取手駅西口(取手市所蔵)



壁画によるまちづくりポストカード  
(壁画によるまちづくり実行委員会作製)

取手市埋蔵文化財センター

〒302-0007 取手市吉田383 TEL0297(73)2010/FAX0297(73)5003 maibun@city.toride.ibaraki.jp

## 開催にあたって

取手市は、昭和45年10月1日に市制を施行し、本年で市制施行40周年を迎えます。この節目の年に当たり、今回の企画展では初の試みとして現代にスポットをあて、40年間取手市が歩んできた歴史を振り返ります。

市制が施行された昭和40年代、日本は高度経済成長期に入り、目覚ましい発展を遂げます。取手も首都圏の近郊都市として人口が急増、都市化していきました。都市として成長した取手市は、平成3年の東京藝術大学取手キャンパスの開校をきっかけに、まちづくりに芸術を取り入れ、取手ならではのまちづくりを進めています。また、平成17年には藤代町と合併し、新たな取手市としてスタートを切りました。

現代史は、私たちにとって最も身近な歴史といえます。この企画展が郷土の歴史を学ぶきっかけとなっていたらと存じます。

最後になりましたが、今回の企画展開催にあたりまして、ご協力たまわりました皆様に深く感謝申し上げて、開催のあいさつとさせていただきます。

取手市埋蔵文化財センター

### オープニングセレモニー

7月20日(火)午後1時30分からオープニングセレモニーを実施します。  
オープニングの後に担当職員による展示解説を実施します。 全て参加自由 予約不要

#### 歴史講座

演 題：村から町へ、町から市へ —取手市誕生までの一世紀—  
講 師：埋蔵文化財センター職員  
日 時：9月4日(土)開演午後1時30分(開場は1時)  
会 場：取手市福祉交流センター(市役所敷地内)多目的ホール  
定 員：160人(当日受付順)

#### 夏休み講座

歴史を学んで取手の未来を描いてみよう!  
(市制施行40周年記念事業 絵画展あなたが描く取手の未来 連動企画)  
昔の写真や地図を使って取手の歴史を紹介し、それを参考に取手の未来を描いてみます。

日 時：8月21日(土)午後1時30分から4時まで  
会 場：埋蔵文化財センター講座室  
対 象：小学校3年生～6年生  
定 員：30名  
持ち物：当日、画用紙・絵の具セットを持参してください。  
申込み：7月20日午前9時から(先着順)直接もしくは電話で申し込みください。

#### 展示説明

7月20午後1時30分オープニングセレモニー後  
7月24・25日、8月14・15・28・29日、9月11・12日:午前11時と午後2時から  
8月21日、9月4日:午前11時から 予約不要、当日展示室においてください。

## 例 言

1. このパンフレットは、平成22年7月20日から9月24日まで開催される市制施行40周年記念・取手市埋蔵文化財センター第28回企画展「ふりかえる取手の現代—取手市の誕生から発展の未来へ—」にともない、発行されたものです。
2. この企画展の企画とパンフレットの執筆・編集は、当センター職員の本橋弘美が担当し、その他職員の協力を得ました。
3. この企画展の開催にあたり、次の方々からのご協力とご助言をいただきました(敬称略)。記して深謝の意を表します。

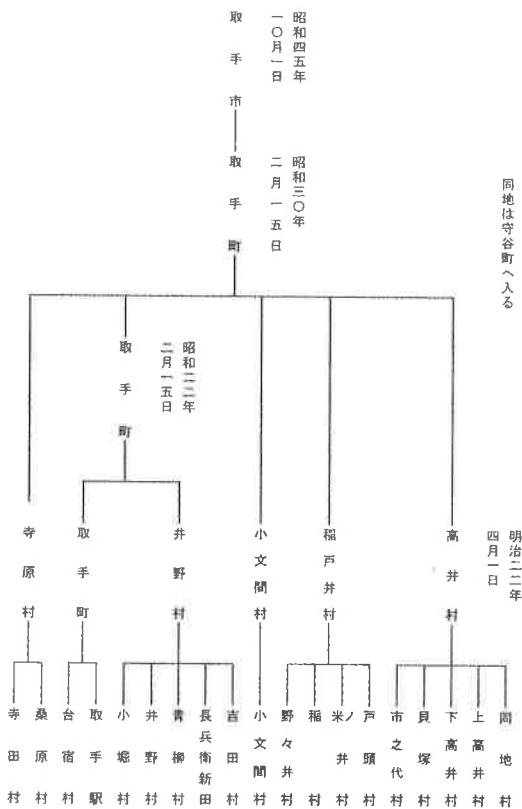
香取忠治、木村廉、寺田光男、野口幸子、平久保清吉、広瀬篤、松田朝旭、小堀地区のみなさん、光風台歴史愛好会、取手市郷土史研究会、藤代歴史愛好会、関東鉄道株式会社、東京鐵骨橋梁株式会社、取手アートプロジェクト実行委員会、崙書房

# 1 取手市の礎(いしずえ) —明治・昭和の町村合併—

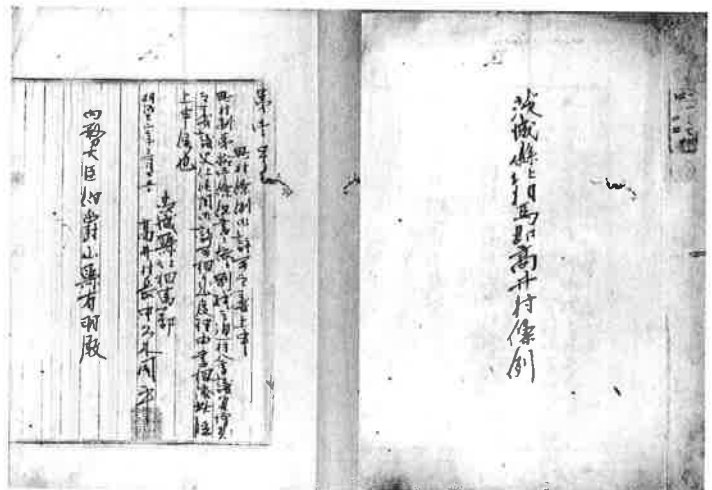
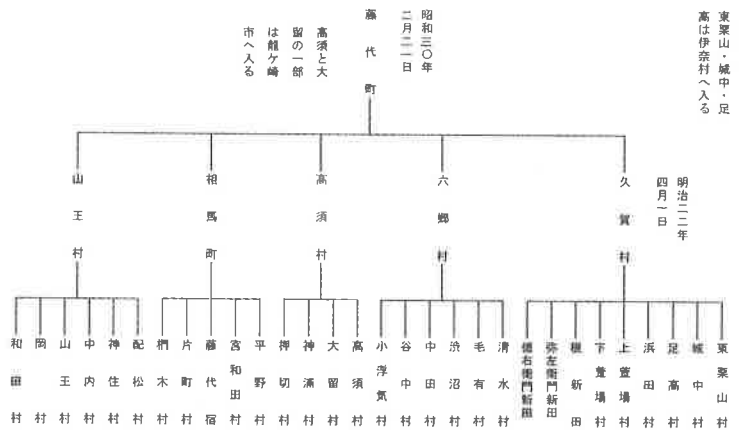
明治21年(1888)4月に「市制・町村制」が公布されました。「市制・町村制」では、府県・郡・市町村は自治と分権を有する自治体として位置づけられ、独立して行政を行えるようになりました。しかし、その一方で自治を行えるだけの市町村の規模と財政収入が必要となり、全国で大規模な町村合併が進められました。現在の取手市域でも、明治22年(1889)4月1日に取手町・相馬町・寺原村・井野村・小文間村・稲戸井村・高井村・山王村・高須村・六郷村・久賀村の2町9か村が誕生しました。

そして、昭和22年(1947)4月に「地方自治法」が公布され、市町村には大幅な地方自治が認められましたが、大きな財政負担も課せられました。そこで昭和28年(1953)9月に「町村合併促進法」が公布されることとなり、昭和30年(1955)に取手町・寺原村・小文間村・稲戸井村・高井村が合併して取手町に、相馬町・山王村・高須村・六郷村・久賀村が合併して藤代町となりました。

旧取手市合併表



旧藤代町合併表



茨城県北相馬郡高井村条例(明治22年)(広瀬篤家文書)

## 2 取手市の誕生

昭和30年(1955)2月15日、1町5か村が合併した取手町は、日本経済の急速な成長の中で、町営住宅の建設や小学校の新校舎の建築、企業誘致など、新しい町づくりを積極的に進めていきます。

高度経済成長の影響による首都圏の拡大や積極的な町づくりによって、都内や近県・県内からの転入者が増加し、合併当時約2万1千人だった町の人口は、昭和43年(1968)には3万人を超えるほどの増加をみました。

また、昭和44年(1969)と昭和46年(1971)に、相次いで日本住宅公団による公団住宅建設が開始されます。昭和44年に建築に着手した井野団地は翌45年に入居が開始され、その年、町の人口は4万人を超えます。

こういった急激なまちの成長の中、昭和45年10月1日に取手町は市制を施行し、取手市が誕生しました。市制施行にあわせて、市庁舎を寺田に建設、移転しています。また、同じく45年7月には福祉会館も完成、市としての新しいスタートを切ったのです。

また、市制が施行されてからも、戸頭団地の入居開始など人口の激増は続き、市制施行から7年後の昭和52年(1977)には人口が6万人に達しました。



取手市制施行・新庁舎竣工式典(昭和45年)(取手市所蔵)



取手市庁舎落成パンフレット(昭和45年)(取手市教育委員会所蔵)



昭和44年の井野団地(取手市所蔵)  
井野公民館方面から撮影したものです。



戸頭団地建設風景(昭和50年)(取手市所蔵)

### 3 まちづくりの歴史 —都市計画と都市化の加速—

都市としての発展には、人口の増加だけでなく、計画的な都市整備が必要不可欠です。昭和43年（1968）に公布された都市計画法に基づき、取手町も昭和43年に取手町の現状と将来に対する開発のあり方に関する研究報告会が開催され、都市計画の骨子を示します。これが現在の取手市の都市計画の礎となり、現在の取手市の町並みの基盤となったと言えます。

また、交通基盤の整備も進められます。昭和45年（1970）には大利根橋の架け替え工事が着工され、昭和49年（1974）に全面開通しました。同49年には常磐線の複々線化の工事、昭和51年（1975）には関東鉄道常総線の複線化工事が着工、そして昭和57年（1982）には地下鉄千代田線の乗り入れが開始され、茨城の玄関口としてますます利便性が増していきます。

一方、産業の面でも昭和33年（1958）の「取手町企業誘致条例」の制定以降、次々に企業が進出してきました。昭和35年（1960）にはキャノン取手工場が竣工、また、小森印刷機械製作所、東京鐵骨橋梁、キリンビールなどの工場が次々と操業し、取手市の発展と人口増加に寄与します。「株式会社東京鐵骨橋梁製作所七十年史」歴史編（昭和59年発行）には、取手工場の操業開始当時の様子が詳細に記されています。また、当時の藤代町には昭和46年（1971）、日清食品関東工場が作られました。キリンビール取手工場は、取手市と同じく、今年40周年を迎えます。



取手の現状と将来に対する開発のあり方に関する研究報告会（昭和43年）（取手市教育委員会所蔵）



取手市総合開発計画書 3ヶ年実施計画書（昭和46年）（取手教育委員会所蔵）

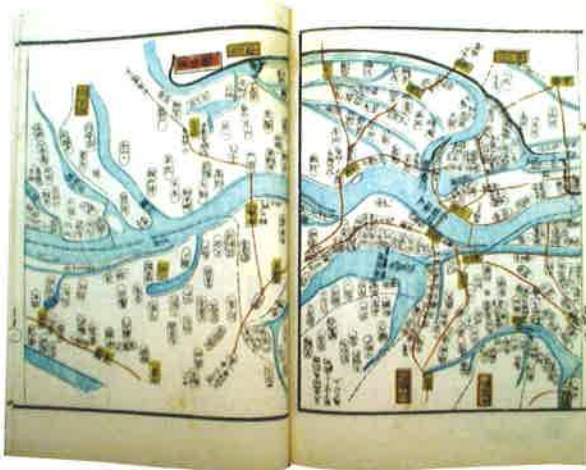


大利根橋建設風景（昭和46年）（取手市所蔵）



大利根橋開通式（昭和49年）（取手市所蔵）

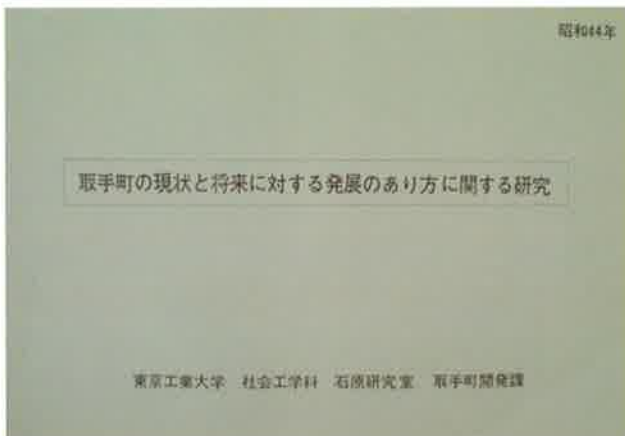




利根川図志(菴書房複製本)(取手市教育委員会所蔵)



取手乃案内(取手市教育委員会所蔵)



取手町の現状と将来に対する発展のあり方に関する研究報告書(昭和44年)(取手教育委員会所蔵)



昭和25年小貝川決壊記念碑



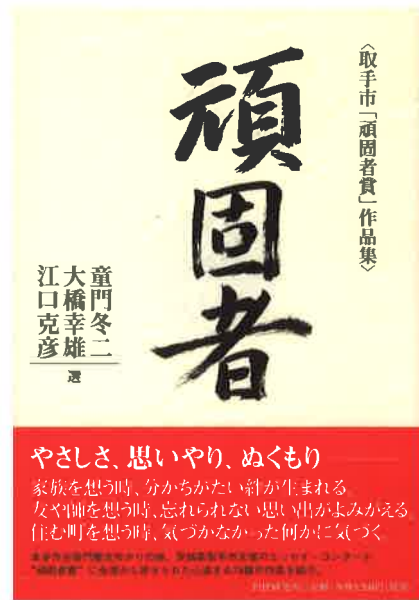
昭和56年小貝川決壊記念碑



市民の歌レコード・楽譜（昭和47年に市民の歌が作られました）



第8回郷土作家美術展ポスター（昭和58年）  
（松田朝旭氏所蔵）



頑固者〈取手市「頑固者賞」作品集〉  
（取手市では、鬼作左の異名をもつ本多作左衛門重次にちなんで、平成11年から3年間「頑固者」をテーマにエッセイを募集しました。）



市制施行20周年記念絵はがきとりで風景（平成2年）  
（取手市教育委員会所蔵）



祝取手市制20周年記念ビール缶  
（取手市教育委員会所蔵）



昭和47年の取手駅西口(取手市所蔵)



昭和50年代後半の取手駅東口(取手市所蔵)



常磐線我孫子・取手間複々線化完成式典(昭和57年)(取手市所蔵)



都市計画道路(現ふれあい道路)取手駅西口・戸頭間開通記念マラソン(昭和62年)(取手市所蔵)



昭和25年頃の競輪場の様子(取手市所蔵)

#### 4 川との共存

取手市は北に小貝川、南に利根川が流れ、その2河川に挟まれるような市域となっています。そのような地形から、取手市は川との関わりが非常に深く、重要なものでした。

江戸時代、水戸街道が通っていた取手市は取手宿、藤代宿、宮和田宿という3つの宿場があり、それぞれ利根川や小貝川を渡るために旅人が立ち寄る重要な宿場でした。また、流通の主流が舟運だった当時は、たくさんの河岸場があり、物流の要としても栄えていました。

一方、小貝川沿いは大規模な新田開発がなされ、小貝川に堰を作ることにより、相馬二万石と言われる大穀倉地帯となりました。

しかし、川はそういった恩恵を授けるだけではありませんでした。川から受ける水害は、住民の生活を脅かす脅威となっていました。河川の水害に何度もさらされた住民ですが、そんな環境からも独自の文化を見出すたくましさがありました。水害のために蔵や納屋を盛土した上に建てる水塚や小堀の渡しなど、川と上手につき合う人びとの知恵が生み出した文化といえるでしょう。小堀の渡しは、明治33年(1900)から開発された利根川の河川改修によって利根川の対岸に位置するようになってしまった小堀地区の生活用渡船でした。また、明治62年(1897)に藤代町で始まった小貝川フラワーカナルは、現在も市内外のひとびととの目を楽しませ、小貝川をより身近なものにしています。





水塚（藤代町合併50周年記念誌「ふじしろ」より掲載）



小堀の渡し鉄船化の様子（昭和47年）（取手市所蔵）



昭和25年の小貝川決壊の様子（決壊口）（取手市所蔵）



昭和25年の小貝川決壊の様子（藤代地区）（取手市所蔵）

## 5 文化の発展

都市基盤が充実していくとともに住民の生活が豊かになると、文化面も発展していきます。

市制施行の昭和45年（1970）、東2丁目に福祉会館が完成、次いで昭和47年（1972）には市民会館が完成し、市内の文化活動の拠点としてさまざまな催しが行われてきました。また、昭和50年代には公民館や図書館が次々とオープンし、文化施設の充実が図られました。

一方、市民参加型の文化イベントも続々と開催されました。第1回の文化祭は昭和47年に、その後昭和51年（1976）には市民音楽祭の開催が開始されています。これらは、現在市展と言われている美術作品展と合わせて市民の皆さんの作品・成果発表の場として毎年の恒例行事となっています。

都市として新しい文化活動が盛んになる一方、取手市には古くから伝わる郷土史料や文化財もたくさん残っており、昭和51年には市史の編さん事業に着手、また昭和56年（1981）には、6棟の建造物が市の指定文化財に指定されました。

こうして、古くからの歴史と文化が息づく取手市内には、多くの著名な芸術家の方々が居住しています。このような先生方の作品を一堂に会する郷土作家美術展（現在の名称は「取手美術作家展」）は昭和51年から開始され、市民のみなさんが質の高い芸術作品を身近に鑑賞できるよい機会となっています。

このように活発に行われてきた取手市の芸術・文化活動が、平成3年（1991）東京藝術大学取手キャンパスの開校で大きく飛躍することになります。



取手市民会館竣工記念パンフレット(昭和47年)(取手市教育委員会所蔵)



第3回文化祭の様子(昭和49年)(取手市所蔵)



市民のうた 小中学校音楽発表会(昭和47年)(取手市所蔵)

1981 4・15 NO.355

初めの市指定文化財  
三世堂など六件の建造物

八坂神社本殿・拜殿  
東漸寺観音堂・山門  
白山神社

人事異動

〈文化財に関するお知らせ〉  
取手市教育委員会 社会教育課 電話2-2258

広報とりで昭和56年4月15日号(取手市教育委員会所蔵)



取手市民憲章制定記念式典(昭和50年)(取手市所蔵)

## 6 芸術によるまちづくり

平成3年(1991)10月、東京藝術大学取手キャンパスが開校しました。それまでも文化活動が盛んだった取手市は、これをきっかけにまちづくりに芸術を取り入れ、取手市ならではのまちづくりを打ち出していきます。

取手キャンパス開校後の平成4年度から、優れた卒業制作作品に取手市長賞を授与しています。その作品は、市の広報誌で紹介するほか、作者から寄贈を受けて市内の公共施設で展示しています。また、取手駅西口の再開発事業や東口の区画整理事業に芸大も参画してもらって、芸術作品を設置するなど、市内どこにいても芸術作品に触れられる街となりました。また、平成17年(2005)には大学の壁画科も加わり壁画による街づくり実行委員会を立ち上げました。実行委員会の制作した壁画は市民も制作に参加しています。芸術作品を鑑賞するだけでなく、制作・参加する段階となったのです。

そして、取手市では、平成11年(1999)から市と東京藝術大学、そして市民の3者が実行委員会を構成し、市域全体を会場にしたアートイベントを実施する取手アートプロジェクトが実施されています。取手アートプロジェクト実行委員会が取り組んでいる地域も巻き込んだアートイベントは、新しい形のまちづくりとして高い評価を得ています。

市のこうした取り組みは徐々に浸透し、現在では市民とアーティストの自発的な交流も始まっています。

## 7 市制施行40周年そして未来へ

平成17年(2005)3月28日、取手市は藤代町と合併し、新生取手市として新たなスタートを切りました。平成17年は、折りしも市制施行35周年の年でもありました。

新市では、藤代駅南口の区画整理が一段落する一方、UR都市機構による下高井特定土地区画整理事業が本格化し、平成23年(2011)には造成区域内の取手ゆめみ野地区に関東鉄道常総線のゆめみ野駅が新しく開設します。

また、まちづくりも両市町の特長を継承しながら、新しい段階へと進みます。合併翌年の平成18年(2006)には、取手市の呼びかけによって、常磐線沿線の4市4区とJR東日本、東京藝術大学が地域全体の活性化を目指し、文化やアートを軸に連携を図るJOBAN(ジョーバン)アトライン協議会を発足させました。

また、陸上交通が発達した現在、忘れられがちだった河川との関わりに再注目し、平成20年(2008)に利根川流域の18市町村(当時)と利根川舟運・地域づくり協議会を立ち上げ、新しいまちづくり地域づくりを進めています。

地方の時代といわれる現在、取手市は今年市制施行40周年を迎え、地域づくりという新たな視点からまちづくりに取り組み、未来へと続く新たな第一歩を踏み出しました。



取手市・藤代町合併記念式典(平成17年)



JOBANアトライン協議会設立総会(平成18年)(取手市所蔵)

### 参考文献

「取手市史」通史編Ⅱ・Ⅲ、近現代資料編Ⅰ・Ⅱ、「藤代町史」通史編、暮らし編、「取手市制施行20周年記念誌 取手新風土記」、「藤代町合併50周年記念誌 ふじしろ」

株式会社東京鐵骨橋梁製作所『株式会社東京鐵骨橋梁製作所七十年史』歴史編・資料編、麒麟麦酒株式会社『麒麟麦酒の歴史』続戦後編、キリンビール株式会社『キリンビールの歴史』新戦後編、日清食品株式会社『食足世平一日清食品社史』

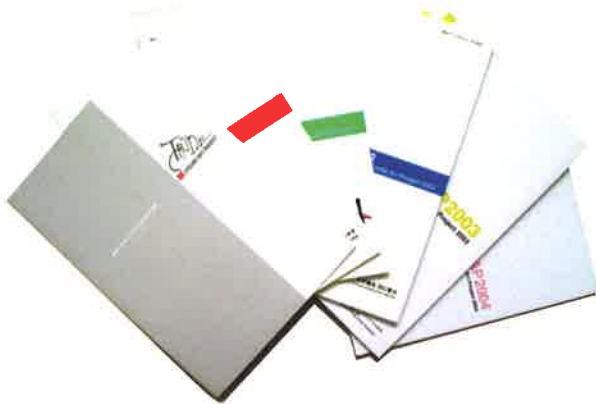




取手市長賞授賞作品展 作品集(平成19年)



平成12年 市長賞授賞作品  
87(はな) (埋蔵文化財センターに展示)



取手アートプロジェクト実施報告書(取手市教育委員会所蔵)



平成18年 壁画によるまちづくり作品(関東鉄道常総線西取手駅前)



現在の取手市役所(40周年を記念する懸垂幕が掲げられています)  
市制施行40周年のキャッチフレーズは「みんなで創ろう ふるさと取手」です。



関東鉄道常総線ゆめみ野駅完成予想図(関東鉄道提供)

取手市制施行40周年記念・埋蔵文化財センター第28回企画展  
ふりかえる取手の現代 —取手市の誕生から発展の未来へ—  
平成22年7月20日～9月24日  
編集・発行 取手市埋蔵文化財センター 制作・印刷 (有)石山宣伝研究所